

審議会等の会議結果報告書

【担当課】こども課

会 議 の 名 称	第1回茅野市こども・家庭応援会議		
開 催 日 時	令和7年8月29日(金) 午後7時00分～午後9時00分		
開 催 場 所	茅野市役所 8階大ホール		
出席者(名簿順)	【委員出席】 市川純章委員、永嶋陽子委員、奥原貴美子委員、伊藤深雪委員、竹内ひかり委員、小澤佳奈委員、柳澤由加里委員、伊藤和巳委員、町田徳子委員、両角恭子委員、清水正志委員(代理)、竹花顕宏委員(代理)、猿谷大和委員、伊藤美奈委員、矢崎知広委員、小池千恵子委員 【市側出席】 山田教育長、五味こども部長、井出健康福祉部長、国枝健康づくり推進課長、両角こども課長、笹岡幼児教育課長、渡辺学校教育課長、野明こども係長、伊藤こども・家庭相談係長、飯島こども係こども育成担当、國枝こども・家庭支援係長、篠原発達支援センター兼やまびこ園長、上野こども館長、樋口こども係主任		
欠席者(委員のみ)	原田正樹委員、森美奈子委員、春山晴夫委員		
公開・非公開の別	☒ 公開 ・ 非公開	傍観者の数	0人
議題及び会議結果			
発 言 者	協 議 内 容 ・ 発 言 内 容 (概 要)		
こども課長	司会進行		
副会長	1 開会		
	2 委嘱書交付		
	ー 教育長から対象委員(6名)へ委嘱書の交付		
教育長	3 教育長あいさつ 本日は大変お忙しい中、このように皆様お集まりをいただき、誠にありがとうございます。 小学校、中学校始まって約1週間経ちます。保育園の子どもたちもこの暑さの中でも元気に遊びまわっています。また小学校中学校の方は夏休み明けということで、子どもたちの心の様子をしっかりと見えています。また、あわせて熱中症対策にも力を入れてるところです。さて、今回委員になりました6名の方々、大変ご多用中の方々ですが、どうかよろしくお願いいたします。 改めて私からご説明することはありませんが、この委員会は、茅野市たくましくやさしい夢のある子どもを育む条例、その精神の推進のため、条例に基づいて設置された委員会であります。今日の議題は4つあります。進捗状況の2つ、それから新たな委員会設置、それからこども館のあり方の検討を開始。その点から、慎重なご審議、またご意見、よろしくお願いいたします。充実した会になりますよう、よろしくお願いいたします。		

	4 自己紹介 【資料1】の名簿順に委員、市側 自己紹介。
こども係長	5 茅野市こども・家庭応援会議の役割について 【資料2】茅野市たくましく・やさしい・夢のある子どもを育む条例に基づき、本会議の役割について説明。 —以降は市川会長が進行
こども係長	6 会議事項 (1)審議会等の会議の公開の確認 【資料3】茅野市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき説明。
会長	本日の会議を公開とすること、会議録の公表を市ホームページでおこなうこと、公開する議事録の発言委員の氏名を「委員」として記載して公表してよいかを委員へ確認。 — 承認
こども課長	(2)第3次茅野市こども・家庭応援計画の進捗状況について 【資料4】により、進捗状況について説明。
会長	私の方から意見をお願いしたい。肝に銘じないといけないかなというような意味合いも込めてですが、自分の成果指標というもので、数値の一覧になっているがうっかりすると数値を上げるのだけが目的になってしまうということが起きてしまうかなと。事務局に質問ですが、どんぐりプランの成果指標という項目は策定時に一緒に作ったのか。
こども課長	その通りです。
会長	はい。管理目標ということでの数値はあるかなと思うが、数値を達成したらOKなのかとは限らないのでやっぱりその解釈というところも重要かなと思う。皆様ここで今見た中で何か注意した方がいいかなとか、何か良い評価でもいので、コメントいただければ嬉しい。また会議の最後に、ご意見をいろいろと皆さんの立場からいただくような時間を設けますので、またその時に追加していただきたいと思います。他に意見等はあるか —意見等なし
幼児教育課長	(3)第二期茅野市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について 【資料5】により、進捗状況について説明。
会長	はい。ではただいまの事務局の説明で、ご意見や質問などありましたらよろしくをお願いしたい。これは数量的な施策というのか。需要を予測してそれに対して備えるということを国に報告するというような性格のものだと聞いている。進捗状況の報告とあるが、表を見ると、令和6年までの5か年計画ということだ

	から、進捗報告でありながら、計画終了という見方になるのか。
幼児教育課長	はい。その通りです。第二期はこれで終了になる。昨年度、三期やっていたので、取り組んでいるという状況。
会長	第三期の報告があるわけではないってことですね。あと数字見て、改めて思ったが、需要を予測してそれにこたえられるように、用意はしたと。それで実績が出たときに予想を上回っていたのはいいが、予想より下回っていることがとても多いが、この場合にはどのように評価をするのか。つまり、予測した人たちをとらえきれなかったと見るのか。予測が外れてたと見るのか。このずれはどうやって評価をするのか。例えば、実費徴収に係る補足行う事業って13件を例えば想定していた令和6年が3件、実績があったということは、10件はこなかったと取れるがそれはどのように評価するのか。
幼児教育課長	この計画はやはり実績に伴っての平均で予測するところもあるので、会長さんがおっしゃる通り予測が外れる年もある。
会長	予測が外れたのはいいが、そういう該当する人がいたのに届かなかったというふうな評価はできるものなのか。それはよくわからないということか。実績ベースで予測しているから、本当にいるかどうかは結局よくわからないということで、少なかったのは取りこぼしたのか、該当者が少なかったのかはわからないということか。
幼児教育課長	量の見込みに関しては十分そこで網羅できる形で計画はしているが、周知も全員に行き渡るようにしているので、今後は計画の見込みのところを検討していかなければいけないと考えている。
委員	読りーむinちのの奥原です。今の説明のこども館について。就学児童が地区こども館を午後利用のところで、今年度に1日当たり161名ということだがこれは、10ヶ所なのか。合計が1日当たり161くらいということなのか。
こども係長	はいその通りです。10ヶ所の合計で1日当たり161人になる。
委員	規模の大きな小学校の近くのこども館と、小さい学校のところとは大差があると思う。でも、大きいところは学童クラブがあっても、こども館にも大勢の子どもたちがきてるように私は感じていたので、大分少ないなど。人数はこれだけなのかと思ったので。市川先生の、取りこぼしがあるのかということも踏まえてのことだが、各こども館からの報告に基づいて、出されるということでもいいのか。
こども係長	はいその通りです。こども館によって来る人数は大きく違う。1桁の数のところもあれば、何十人と毎日来る館もあるので。この数字自体は、各こども館からの報告を持って計算をしており、夏休みとかも含む中で平均すると161名となる。
会長	平均にするとということで印象とのずれが起きるのか。どういう統計を捉えればいいのかというのはまた別なところなので、これは国に対して需要と供給でちゃんとやってますかということなので、こういう評価になるのかなど。別の観

	点で満たしているのかという別の方が必要だと感じる。他に意見等あるか。 —意見等なし
こども係長	(4)地区こども館あり方検討について 【資料4】により、進捗状況について説明。 20年経つ中で、現在の状況は、小学生が約20%の減少。地区こども館の利用者は、全体として約30%減少している。各館により、イベントの開催や運営にも違いがあり、その違いこそ地区こども館の多様性であり、それが良いという一面もある一方で、利用者が限定的になってきているという状況もある。ここで課題として挙げたのは、2つ。まず1つ目は、設置目的と、社会環境の変化に伴う住民ニーズの変化を検証する必要があるのではないか。2つ目として、市民の理解を得られる効果的な運営方法を考える必要があるのではないか。今回のあり方検討の目的は、限りある財源の中で、住民ニーズに即した効果的な運営と、地区こども館に求められる役割を実現するために、施設の役割、運営経費などを再評価し、地域に必要な場所として、持続可能な運営を行うための見直しを行うというもの。引き続き、あり方検討の進捗については、こちらの会議で報告させていただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。
委員	地域の繋がりは地区こども館から生まれてくるなと感じている。本当にこども館はこれからも長い目で見て、使っていただきたい。本のある屋根付きの公園なのだが、本が大分古くなって、大人の方がとても遠慮して入っていけない。こども館という名前なので仕方ないと思うが、大人の本が少ないと感じている。こども館の有効利用というのは、やり方によってはこれからも子どもたちに必要な場所、大人にも必要な場所になるのではないかなと思います。
会長	図書館の分館を兼ねているということでもっと幅広い利用活用をして欲しいということ。社会教育委員をやっているが、図書館をニーズにこたえるんじゃなくて、必要な機能を果たすようにしていこうということが議論されてるようなので、繋がっていかないと施設の有効活用っていうところは難しい。なので本日も、子育てに関するこの会議だが、皆さん違った視点で見ている方が集まっているので、情報提供とかご意見などもいただければと思います。今読んでいて思ったが、あり方検討をしていきましょうを、茅野市の方針にするということをこの会議で、認めるっていうことでもいいのか。読んでいくと背景と目的だけだが、だから何をするのかっていうのはここに書いてなかったりとかしたので。そういう方針を立てて活動していこうという事で良いのか。
こども係長	その通りです。この課題が挙げられるというところで、今アンケートもやっていますが調査をしたり、進めているところ。
会長	条例を見ると、市民協働でやろうということによりそういうことの活動をしていこうというテーマをここで承認したということなのか。このような取り組みをすることが茅野市のどんぐりプランの活動をしていくという解釈なのかなと思ってしまった。他に意見等あるか。 —意見等なし

こども係長	(5)第4次茅野市こども・家庭応援計画の策定に伴う専門委員会の設置について 今後検討していかなければならない、2028年度、令和10年度から始まる第4次茅野市子ども家庭応援計画を策定するにあたり、専門委員会の設置を提案させていただきたいと考えている。本来、この会議で策定の議論を進めるべきだが、会議全体での議論は、多様な視点をえられる一方で、意見の集約、細部の検討が難しくなる。そこで、会議の中に、少人数の専門委員会を設置させていただき、集中的に検討し、案を整理した上で、会議に報告をし、この会議で議論を重ねていくという形をとることで、議論の効率化や質の向上を図りたいと考えている。専門委員会では、第三次どんぐりプランにおける指標の再評価、第4次どんぐりプラン策定の進め方などを検討していく。検討した結果をたたき台として、委員の皆さんの意見を反映させながら、最終的にはこの会議で決定していく。具体的には、委員の約3分の1となる6名程度とし、会長、副会長他、立候補していただける方、もしくは会長と事務局による選出で構成をし、月に1回程度開催をしていきたい。この提案について、ご意見等ありましたらよろしくお願いいたします。
会長	整理すると、第4次のプランの策定が迫っている。令和10年からのスタートになるということで、そのプランをどう作っていくかということを検討する専門委員会を作るということ。だから、第4次のプランの策定のためのいろんな動きは、またその次に起こることになる。どのように第4次のプランを作っていくかということ、構想練る専門委員会を設置するということ。これはどれぐらいの期間を想定しているのか。
こども係長	今年度中を想定している。
会長	特にご意見がなければ、事務局だけではなく専門委員を作って進めていくということになるので、この後お声がかかったりとか、ご意見を募ったりということが起きるのでどうぞよろしくお願いいたします。 それでは、皆さんの視点から、今茅野市の動きに対して、これは皆さんの活動のことも含めて大丈夫。いろいろと意見交換、情報交換を行えたらと思い時間を取ります。この時間は大事じゃないかなと思い、私会長を務めさせていただいてから、少しちょっと時間はかかるが設けさせていただいておりますのでそれに移りたいと思うがよろしいか。 これはどなたかご発言をというよりは、もう皆さんの視点で、一言ずつ、自分たちの活動の視点だとかそっから見える様子そんなこと、或いは抱えている活動の問題点。皆様の活動そのものがいろんな団体活動が滞ることも、ある意味ではこの茅野市のですね、推進の滞りとも言えますのでそういったことも話題提供いただければと思います。
会長	皮切りで、私からどんぐりネットワーク茅野について。どんぐりネットワーク茅野はネットワークを構築するということであって、子育てに関わるいろいろな団体とのネットワークということになっており、ここは地域の子は地域で育てるという理念がどんぐりプランにはあるがそういったときの、各地区の中に、子育て部会とかそういった子どもの、地域全域をテーマにした活動する団体もあるんですけれども地域ごとにやるってということもある。実はその地域との繋がりというのが導入立場としては、薄かったのだなと思うこともある。例えば地域ごとの子

	育ての活動とかが低迷してしまったりだとか、いろいろなことが起きているなということがわかった。例えば聞こえてくる範囲だと、こども会育成会は何をするのかわからなくなっているだとか、連絡協議会があるのだが、そことの繋がりも特にあるわけでもないような状況。そうするとせっかくその地域ごとに展開していたものがちょっと希薄になっているなど。そこのところも、作らなければいけないというのが、最近の気づき。違う観点であと2つですが、先日南信教育事務所が開いているフォーラムで、地域連携協働フォーラムがあった。部活動の地域移行地域展開という話題が入ってきた。茅野市でも少しずつ始まっているが、ちょっと違和感を覚えたのは、部活動って何だったんだろうかなという、習い事の提供に変わってしまっているのかなと。何か指導者がいないとできないとか、クオリティを高く提供しないといけないということで、そもそも目的はなかったのかという点がありまして茅野市では今、それは動き始めているけどもどうなのかなってのは気になった。その部活動を、教育という視点でとらえるのか。そうでなければ自由に参加する民間のスポーツクラブに行けばいいというふうな考え方もあるので、学校教育の中でどうとらえるのかというのは、考えていかなければいけないのかなと考えさせられた。あともう1つは、どんぐりネットワーク茅野で去年と1年間、いろんな情報収集しながら提言という形で学校の統廃合のことをやった。学校教育課という観点から、学校の見直しをするというのやはり限界があるのかなというのは今の状況では厳しいと感じる。学校教育課、教育委員会の方針は複式学級を作らないのを念頭としているからということだったが、複式学級でもいいのではないかという意見はどこにあるんだ等いろいろある中でまちづくりの中で地域の中の、避難の拠点だとか、福祉拠点だとかいろんな複合的な役割があるということをやっぱり落ちてるなというのがいろいろな活動を通して見えてきた。学校の教育の視点だけで議論するというのは限界があるのかなとそんなような印象は受けた。そんな3つが情報共有としてある。
副会長	茅野市の21世紀の福祉を創る会から 今福祉、21茅野の幹事として、こちらの方に参加している。福祉21の活動も、必要な活動で福祉はすごく大切なことではあると思うが、必要としている方にきちんと福祉を届けるといこととか、福祉は必要でない方は誰もいない。それは教育と一緒に思う。そういう中で、元に立ち返って教育とは何だろうか、福祉とは何だろうか、人間関係とか1つ1つのものをきちんと考える時間があるような生活をちっちゃな子どもからできるといいなと思う。どんなにハイハイしかできない子どもさんでも、いろいろな人と関わって、大きくなっていて欲しい。福祉の中の1つでもあるので、子どもさんとの関わりについても、活動をしている。子どもにとって今ってというのは、20年後とか、30年後を考えて、今を考えていかないと、それは落ちるもの多いし、変化するものも必ずあるので、今の私たちがちょっと考えとか、前と同じをやっていくっていうようなことではもう済まない状況になっている。私も10年以上前にちょっと子育て部会に関わったときには少子化は問題になっていた。少子化は、動きに入ると止まらない。絶対止まらないと思う。これを、少子化っていうのは子どもの人数なのかとか、子どもが思うやりたいことを活動できるように、生きていけるってことが、1人の子どもが2人分にも3人分にもなるかもしれない。そこが、その子に対しての福祉でもあるかもしれないが、逆に言うと、この地域への福祉になると思うので、20年かかると思うんですが、ぜひ頑張りたい。そのためには、1つ1つの活動の目的や、これは何をするかなということ、このプランを考

	えるにあたって、もう一度やっていかれるといいなと思う。
会長	福祉は、関わりが薄い人も現在いるかもしれないが、福祉に関心を持つような教育も、子どもたちにもしていこうというようなメッセージも多少入っていると。
副会長	そうです。今もしてると思うが、具体的にできる、教育がわからない。
会長	確かにどんぐりプランを見ると、そこはあまり書かれてない。確か中間の見直しのときにあったのは、その多様性の中でそれを理解するということを普及しなければいけないという、困ってる人に対処するだけではなくて、困ってる人のことをわかってもらうということが必要だというのが、見直しの中であったのでそれと類推かもしれない。困っている人への手当だけではなくて、そのことに関心を持つ人を育てていくということなのか。次の第4次とかにも重要な要素なのかなと思う。
委員	読書の森 読りーむinちのから 読りーむinちのは今月、26歳になった。数えて27歳になるんですけども、今年はコロナ禍で遅れていた25周年事業を今進めているところです。7月には子どものための講演会としてワークショップと講演を鈴木守さんという研究会の方で有名ですが、絵本作家の方に来ていただきました。子どもたちがたくさん参加してくれた。実は去年この場所で、もう読りーむinちのも二十六、七年やっていると活動メンバーが高齢者になり、70代80代になりやめる人が多いという話をさせていただいた。今年中川先生の話のときにも話をしたら、高齢だとか、年取ったからやめるというのは違う。楽しければみんな来るよ、会が楽しければ来るよと言われたのでみんなで楽しい会にしたいと思い、今回の講演会も久々にメンバーが多く集まって開催ができた。今年は25周年記念事業、これから10月には市役所1階のロビー展をするために作業を進めている。また今後11月には記念式典も予定している。今年は老体に鞭を打って頑張ろうと思う。
委員	茅野市食生活改善推進協議会から 食改では、自分たちの健康は自分たちの手でをスローガンに活動している。子どもと関わるというのは、夏休み、親子料理教室を何年もやっており学校ごと募集をしたときに、結構多く毎年盛況で、食に関してはやっぱりいつになってもみんな興味を持っているんだなと感じている。この活動は今後も続けていくようにしたい。それから茅野高校と東海高校との調理実習も毎年行っている。学校の子どもたち、東海は2学年の全クラスと調理実習をするが、そうするといろいろな話をしながら料理を作るが話をしていると、子どもが今何を思っているなどを、少しだが感じることができる。
委員	茅野市スポーツ協会から スポーツ協会での活動の方、情報共有したいと思う。昨年度7月から運動公園の施設、近隣公園の料金改定ということで話があり、改定が10月1日の利用分から、料金改定ということで、話が進んでいる。大きく変わったところは、市民以外と市民の料金が同一になったというところ。幾つかありますが大きなところが、その部分になる。近隣公園というのは、弓振公園、花蔭公園、岳麓公園、前宮公園、中大塩公園だった。無料で利用できていたところが、今度から

	は有料になるということになる。私自身がどうかと思うのは無人の場所である意味。管理運用をどうするのかということ。勝手に入れば使えるし、逆にお金払わないと使えないというものもどうだろうとも思う。先ほど市川会長が言われた、中学の部活動の地域展開。スポーツ協会に所属している各団体が、個別で進めているというような感覚で私はちょっと見ているが、各団体それぞれで地域展開の受け皿になるように動いているので全くやってないところもあるしという。個々で活動しているが、スポーツ協会として全体の様子状況も把握できていないというのが、私自身が持っている感想。今後、スポーツ協会としてどうしていくのが一番いいかなと考えている。
委員	茅野市子ども会育成連絡協議会から 茅野市リーダーズクラブについて話をしたい。私も高校3年生からやっており、数えると30年近くやっている。現在もシニアリーダーという立場で、高校生の活動をサポートしているという状況。課題として非常に困っているのはイベントに参加しませんかと、募集をかけると結構多くの人数が集まりましたがここ最近では全然参加者が増えない。毎年行っている茅野市少年リーダー育成研修会を今年は9月の13,14に開催。青少年自然の森で1泊2日で行う。今回募集をかけたところ、一般の参加者がいないという状況になりまして、参加者は誰かと言いますと、茅野市リーダーズクラブ養成コース、小学校5年生、6年生、が最初になるが、その6年生が10名ほどというような状況。子どもたちに、必要とされているのかというところがすごく課題になっており、今の子どもたちは部活とか、習い事とかで忙しいというのもありますので、そういったところの今の条件を合わせた活動していかないといけないかなというところがすごく課題になっている。今後の存続についてもシニアリーダーの中で話し合っているところ。高校生が主体となっているクラブだが、実際高校生も今、4名で活動している状況。ちょっと苦しい状況ではある。
会長	今みたいな話はとても深刻だと思うが、忘れちゃいけないかなと思うのは求めに応じることを提供するものもあるが、必要な教育というリーダー育成だとかなければいけないものというの、やっぱり目的意識を忘れなきゃいけない。来ないから必要ないっていうことではない。何かがあって必要性がわからない世の中になってるかもしれない。そこは何か、もっとトータルで未来を見据えると考えたい。
委員	茅野市主任児童委員 活動としては、大体子どもと直接関わるというのは独自で動いていく形になる。保育園の慣らし保育の方に参加をさせていただくところから、あとは各地区で行われている子どもの行事等々に保育園、小学校、中学ほとんど文化祭とかそういうようなときに参加し子どもたちの様子を見守っているというのが主な活動になる。毎月1回定例会を行っておりましてそこでは様々な研修と視察等をしており、今年度は諏訪の養護学校の方を視察した。来週9月2日は、今度里親についての研修を受ける予定になっている。私たちがいろんなところで繋がりというの頭に入れて活動をしているが、先ほど養育支援訪問事業というところで12件の実績があったが、これは必要とされているところに報告したという実績数だと思う。前もお話をしたんですけど、なかなか個人情報保護法という問題がどうしても大きな高い壁になっていて、例えばこういうような方がいらっしゃる12名の方のところに行かれたということは、そういう実態があるんで

	しょうけど、実際問題としてそういったものは共有されていないという実態があると思っている。見守っていきいたいとか、繋がりを持っていきたいということを考えてはいるが、なかなかそれが繋がっていかないという何となくジレンマみたいなものは常に活動をしていて感じている。ヤングケアラーの問題ですとか、ひきこもりですとかその不登校の問題ですとか、いろんなことがあると思うが、実際主任児童委員は一切そういったことを知らないといえますか、実態がわからないという状態が活動していつもはがゆく思っている。このような状況で活動している。
委員	諏訪人権擁護委員協議会茅野市地区部会から 人権擁護委員です。ちょうど昨日ですね、中学生の作文コンテスト作文を、茅野市全体でいただいて1000以上の作文を、中学生から出していただいた。その前には小学校に読み聞かせに行ったりということで、小学校もそれから中学校も作文を見ても、本当に多様な人権問題について子どもたちが書いている。こんなことを感じているのだということを、本当によくわかった。また茅野高校の猿谷先生には、高校での人権教育の取り組みを聞いて、本当にいろんな視点で子どもたちに学ばせてくれている、本当にありがたいと思う。しかし、そんな中で親はこの人権について、それから子どもの人権についてどう考えてるのかというところが、なかなか見えてこない。今柳澤さんからお話伺ったこともちょっと全部人権に繋がっているかなと思い聞いていた。この人権擁護委員の仕事とはまたちょっと別で、最近感じることもあって、いろいろなことを子どものためにと考えてやっているが、子どもの人権ということを考えたとき、それってどうだという。ちゃんとご飯が食べられているのか、自分の言いたいことが言えているか、それから勉強ができるか、それから友達と遊ぶことができてるっていうことを考えたときに、なかなか親の都合で子どもと遊ぶ機会奪っているのではないのかと思うところがたまたま最近あった。親の子どもの人権について何かできればいいなと最近思っている。
会長	第4次プランで、組み入れなきゃいけないことかもしれない。
委員	茅野市保育所保護者会連合会から 茅野市の保育所保護者会連合会は今年度から会長、副会長の3役のみとなった。例年までしていた定期的な情報交換という、各園の代表が集まっての情報交換はなくなってしまった。他の園の情報が入ってこないような状況なので報告することは特になし。話を聞いていて、地区こども館のあり方ということで、個人的な意見だが、公園に行きたいというと最近暑くて公園に行けないときによく利用しているが、小学生のおおきいお姉さんとかがよく一緒に折り紙を折ってくれたり、絵本を読んでもくれたり、よく関わってくれ異年齢の交流の場としては大切な場所ではないかなと思う。また家の子どもたちがおっきくなったときに、未就園児等の子たちに絵本を読んでもあげたり、折り紙を折ってプレゼントしてあげたりということができたらいいなと思っているので、子どもの居場所として必要な場所かなと思う。
会長	保育所保護者会の連絡会が機能しなくなっているというのも、先日聞きまして、市民側が自分たちで関連するテーマのことを話し合うという、組織が崩壊してしまっているともいえるので、これは大変なことだと思う。何かやっぱりここも考えていかなければいけないと感じた。ありがとうございました。

委員	茅野市PTA連合会から 今回、会議に参加させていただいて、子育てや、家庭応援というのにすごく取り組まれているんだなということを感じた。私も今、子育て中で小学生の子どもがいるが、2歳～3歳の頃こども館にお世話になりまして、保育園に行く前に、地域のお友達、親や子ども、仲良くさせていただいたことで保育園に行きやすかった。本当に感謝している。私の子も小学生になって、子どもがなかなかそういうこども館を利用するという機会がなくなっているの、大人も気軽に利用できるような、場所になればと思った。
委員(代理)	茅野警察署から 茅野警察署ですが、私からは警察目線的な話をさせていただければと思う。警察業務の中では、いろいろ幅広いことをやらささせていただいており、小学生と一緒に公園に花を植える。そういった活動ですとか、保育園小学校に行って防犯訓練みたいなことをやらささせていただいて接触させていただいてる部分もある。またその反面、残念ながら児童虐待だとか、DV関係の心理的虐待ですとか、心理的に含めて関係機関の皆さんと対応しているところ。現場で私も感じている、考えているということは、特にDVとか、心的虐待とかそういう児童虐待の関係で、ご両親と接する指導したりすることもあるんですけども、人間の形成というか人間性の形成という意味で、大人になってなかなか人間を変えることは、年齢が低いときという方が教育や援助というのは非常に重要なのかなと思う。そんな中、このどんぐりプランというものがより良くなっていくということは、やはり支援を受けた人がやがて大人になりまた、家庭を持って、家庭を作って、そういったときにその子どもがまた、その熱い支援を受けて、またその方が大人になってと繰り返しをしてことでその社会がより良くなると思う。人間性が高くなれば、その地域も安心で良くなっていく。その中でこのどんぐりプランは非常に大切だと感じている。
委員(代理)	長野県子ども・若者育成支援推進本部諏訪地方部から 地域振興局ですが県として様々な取り組みしてるをしている。当局では子ども支援の一環として、フードドライブに重点を置いて取り組んでおり、先月も統一キャンペーンを実施し、地域の皆様や八十二銀行長野銀行などの企業からも食品のご提供をいただいた。最近は物価高の影響等もあり、家庭で余る食材自体が少なくなってきており去年と比べて非常に集まる物品は、少なかった。これはいい傾向という捉え方もあるが、支援の手段としてはそういった状況から今後フードドライブに代わる新たな方法も考えていく必要があるのかなあと思う。また、最近では受け取る側の意識もちょっと変化があり、こんなものしかないのかだとか、この食品ないですかみたいな声も聞かれるようになり支援を受けることへの感謝、限られた中での選択であるという意識の共有も今後の課題かなと考えている。
委員	市内高等学校(茅野高等学校長)から ここ2年ぐらいだと思うが、学校から家庭へ連絡しても連絡を返してくれないおうちが増えてきている。学校からの連絡だけではなくそういった家庭というのは、官公庁からのことについても、深入りしてほしくないというような傾向があるのかなと感じはしている。今日いろいろ資料を見せて出させていただいて、小中学校の生徒さんが満足する高い数字もありますし、一方で相対的貧困率

	の話も出てきたり、自治体さんによって、先ほど見てきた虐待の話ですとか、取り組みの差がある。茅野市さんの場合は、学校の場合に関わるようなことも課とか、学校教育課が多いが、先ほどのお話のように、福祉部局との関わりがなければとか、発見という点では幼児教育に関わる部局との関わりがなければ、関わりを拒む家庭といえますか、数字にあらわれない。拾いきれないというふうに思うが、その人の場合はおそらく窓口ではいろんな苦労がきつとあるだろうという、予測されます。この会議というのはおそらく関係する部局を見ると、数字だけにはあらわれないところでも、何とか手が届くという施策だと思う。引き続きご支援いただければありがたいと思う。
委員	茅野市教育委員会から 本当に目からうろこの話が、いっぱい、教育委員として本当に、この場にいられたことが非常に、有意義な場となっている。実際のところ私教育委員という名前をいただいているが、勉強不足なのか本当にただ自分が勉強させていただいてという感覚がずっとある。会長さんのお話にもあったように部活動は何かといういい意味みたいなものとかそういう初心に返るというのもなんですけれども、そういうことって本当にいろんなことで、皆さんのお話を聞いた中でも本当に初心に帰るということを考えさせられた。その言葉の意味を考えていることは本当に大事だなというのは改めて感じた。これからも、勉強させていただきたいと思う。
委員	茅野市校長会(永明中学校長) このような会議に出させていただいて、私も本当に小中学生のみならず、いろいろな保育園からいろいろなお子さんが手厚く大切にされてるんだということを、感じる場面で本当に感謝している。我々もずっと目の前の子どものことばかりになり、視野が狭くなってしまいますが、本当にこういうことを私がまた学校へ伝えていかなければいけないんだろうなと思いました。永明中学校の話をさせていただく。永明中学校のところで、目指す子ども像として新たな取り組みをしています。この夏休みのスタートのときにスチューデントティーチャーをやりました。これは米沢コミュニティのこども館のメイトさんがやられている、中学生が低学年の子どもの勉強を見てやるという。いつかそういう寺子屋をやりたいなと思ったので、永明中学校でも施設を使いながら中学生が小学生の勉強の面倒見ようということをやった。そしたら高校生も来てくれて、何故か小中高の繋がりの中で勉強をしていた。まだまだ人数は少ないのですが繋がりを大事にしたいな、コミュニティを大事にしたいなと思っている。掃除も小中一緒にやって試してみたら苦戦している。すべてがうまくいくわけでもなくて、チャレンジすることが大事だなということでやっている。今度9月に永明小米沢小の1年生の子どもが、永明寺山で遠足をする。私ども、小中一貫教育がとても大事だなと思って縄文のビーナスプランとして、それぞれの学校区ごとに特色を持って進めて今動き出している。永明中学校では、読書図書館教育というのを軸として、探求的な学びで小中をこうつなげたいな、学び方を接続したいなと思っている。まだまだ1歩踏み出しているか、踏み出していないかわからない状態であるが、少しずつ進めながら異年齢も含めながらそれぞれの年代の子どもを目の前の子どもも大事ですが、全体の中で接続ということを考えてやっていきたいと思う。以上です。

委員	茅野市園長会(ちの保育園長) 保育園でも、7月の後半から8月の初めにかけて、中学生高校生のたくさんの方々がサマーチャレンジにも来ていただいた。また小学校の先生方も1日保育士体験に来ていただき、子どもたちはすごく幅広い世代に様々な人たちと関わって、子どもたちは本当たくさん一緒に遊んで、楽しい時間となった。また保護者の方も1日保育士体験というのを、園でもやっているが、お母さんお父さんが参加していただいている。お昼寝の前に、絵本を読み聞かせをしてくださっていて、絵本を読むのが苦手だからとか緊張するからと言ってくるおうちの方もいるが、午後の懇談のときにお話を聞くと、子どもの好きな絵本を選んできましたとか、あと図書館に行って、一緒に子どもと一緒に選んできましたとか、そう言うてくださるおうちの方もいて、図書館も行ってきてくれたんだなというところで私もそのお話を聞くことで、すごくうれしくなって、1日保育士体験の時間を大切にしてくださっているというのをすごく感じた場面もあり保護者の皆さんとの信頼関係も深まる時間にもなって、子どもの育ちを喜び合える時間となっている。そういう時間、体験はすごくこれからも大切にしていきたいなというところと、たくさんの方に参加していただいて、自分の子どもだったり周りの子どもたちのことを感じる時間を大切にしていけるように、職員同士だったりとか、全員で体験のよさを伝えていける工夫をしながら皆さんにお伝えしていきたいと思う。保育園としてはその繋がりというところで、様々な地域の方とか、学校との交流とか、繋がりを大切にして沢山の経験をして、子どもたちの成長を沢山育めるように、あたたかな保育をこれからも進めていきたいと思う。
会長	時間を大分いただき、情報共有ということでありがとうございます。これで何か決まるということでもないですけども知ること、次のアクションに繋がる。事務局というか市役所の担当者もいっぱいいますので、これがだんだん少しずつですね、繰り返し繰り返すことで、反映していくのではないかなと考えている。全体を振り返って、何かあるか。なければこれで会議事項を閉じたいと思う。
こども係長	7 その他 事務局から3点お願いしたい。先ほど設置を認めていただいた専門委員会につきましては、立候補、またはやってみたいとおっしゃっていただける方は、来週9月5日金曜日までに事務局までメール電話等でご連絡ください。人数に達しなかった場合は5日以降、会長と相談の上で選考させていただく。選出された方はぜひご理解ご協力をよろしくお願いしたい。今後のこども家庭応援会議の予定についてですが、専門委員会の検討を経て11月下旬に第2回の会議を予定している。改めてご連絡を差し上げますので、こちらの方もよろしくお願いしたい。 3つ目、チラシを配らせていただいております。9月3日水曜日の夜7時より、市民活動センターゆいわーく茅野において、情報モラルアップ講座、手のひらの上のリスクというものを開催する。長野日報で連載をしている南沢先生においてになっていただき、実際に起きている事件、それはなぜ起こったのか、それを予防するためには何ができたのかということを具体的に話していただけることになっている。大変興味深い内容となっておりますので、ぜひご参加いただきますようお願いしたい。

副会長	11 閉会
-----	-------